

# 平成30年度 東村山市立南台小学校 第1回学校関係者評価報告書

## 学校教育目標

人間としての調和がとれ、心身ともに健康で、主体的に学ぶことができる児童の育成を目指し次の目標を設定する。  
◎ やさしい子 ○ たくましい子 ○ まなびあう子

## 目指す学校像(ビジョン)

笑顔あふれる南台小 「かよって良かった南台小」毎日が楽しく、安全で学ぶ喜びのある学校 「かよわせて良かった南台小」保護者や地域にとって安心と信頼のおける学校

### 【目指す学校像】

### 【目指す児童・生徒像】

### 【目指す教師像】

笑顔あふれる南台小の子

「謙虚な教師」子供に学び、子供と共に成長する。 「常識的な教師」誠実で礼儀正しく社会人としての常識を備える。

「専門性豊かな教師」自分のキャリアアップを追究する。「尊敬と信頼される教師」保護者や地域の方々に対して誠意をもって接する。服務規律を遵守する。

## 前年度までの学校経営上の成果と課題

成果 ・校内研究を通しての外国語への教員の理解と指導力の向上。・前例踏襲の打破とそれに伴う改善。

・富士見町学校・園連絡会による保幼小並びに小中、小中連携の充実。

課題 ・教員の指導力を含めた資質能力の向上、メンタルヘルス対策。・いじめ0 不登校0の達成。

	具体的方策	第1回評価		課題と対策	第1回学校関係者評価
		努力目標	成果目標		
学力向上	○東京ベーシックドリル、東村山市版基礎ドリルの活用と取り出し指導や必要に応じた課外補習の実施	2	3	○東京ベーシックドリル、東村山市版基礎ドリルが活用されている。ドリルを活用し、どの部分でつまづいているかを確認し、学力向上を目指していく。	◎子供はドリル学習に取り組んでいるようだが、何を使用しているのかが分からないので、教材を使う上でのねらいをはっきりした上で活用する必要がある。 ◎学習につまづきを感じる子供の力を確実に付けられるよう、習熟度別の学習を効果的に行うことが大切である。
	○学習規律など発達段階に応じた全校ルール「南台小スタンダード」の徹底と自己評価活動を明確に位置付けた授業構築	2	3	○「南台小スタンダード」に基づいた指導が行われている。毎時の授業における「振り返り」も行われるようになった。但し、子どもの達成感につながっていないこともあり、授業の内容とともに「振り返り」の価値を共通理解していく。	◎小学生時代だけでなく、生涯を通して、事を成す上で、「振り返り」は重要である。引き続き、「振り返り」を重要視し、授業で取り入れていって欲しい。 ◎メディアの影響で、一般的に子供たちの言葉遣いが気になる。小さい頃から丁寧な言葉遣いに心がけさせるためにも、日々の教育活動で意識して取り組むことを望む。
健全育成	○いじめ調査の定期的な実施による早期発見と全校体制での解決	[2]	-	○4月当初にいじめ調査をアンケートで行った。子どもと担任の全員面接により、きめ細やかに対応することができた。いじめの事例が見つかった場合は、全教員で共通理解し、学校全体で問題解決できるよう取り組んでいる。	◎ひどいいじめはないが、からかいが過ぎる場合がある。先生は、ちょっとした子供の様子にも気付き、子供の訴えに耳を貸す必要がある。子供や保護者と信頼関係を築く上でも、連絡を密にして欲しい。
	○たてわり班活動「にじいろ」や異学年交流「なかよし会」等の活動の充実	4	4	○5月の全校遠足や7月のにじいろまつりで、たてわり班で活動した。また、運動会や生活科や総合的な学習の時間等で、異学年での交流も行われ、子どもたちは役割を自覚し、互いのよさを認め合っている。	◎たてわり班活動は、南台小の特徴的な教育活動である。今後も継続して欲しい。
健康・体力づくり	○トップアスリート等を導入した体育の授業実施	3	4	○オリンピック出場経験のある選手を含めた陸上クラブを招き、全学年を対象に「かけっこ教室」を実施した。 ○ゆめ未来プロジェクトの一環として、ブラインドサッカーのパラリンピアンをゲストティーチャーに迎え、お話を聞かせていただいた。3、4年生は実技を通して、障がい者スポーツへの理解を深めた。児童の満足度も高い。	◎オリンピックやパラリンピックの選手を呼んで、実際に子供に話をさせていただくのは、とてもいい経験になる。
	○家庭と連携した「生活リズム調査」の実施と結果に基づく指導	1	3	○保護者を対象に、「朝はすっきりさわやかカード」で調査を行った。項目をチェックすることで、基本的な生活習慣を送ることができたかの自己評価につながっている。 ○学校保健委員会は広く保護者にもよびかけ、「おなか健康教室」として、11/26に実施予定。	◎生活リズムを安定させることは、重要事項である。学校と保護者が協働して取り組む必要がある。特に朝ごはんを食べる、栄養のバランスを考えることは、大切なことである。それぞれの家庭の事情はあるが、これからは学校から、生活リズムを守る大切さを発信し、子供たちが健康に過ごすように支援して欲しい。
保護者・地域との連携	○速報性かつ柔軟性のあるホームページの定期的な追加・更新	3	-	○週一回は追加、更新ができており、学校からの情報発信の一役を担っている。	◎学校の様子を知ることで、学習の様子もわかり、家庭では、何を大切にしていかななくてはいけないかが分かる。これからは続けて欲しい。
	○地域の人材、教育資源を生かした豊かなかかわりの機会の拡充	4	4	○全学年が地域人材を活用した授業を実施した。近隣学校、高齢者施設等との交流も進めている。 ○6年生が全生園について調べたことを、NPO団体アートフルアクションの支援により、アートの形で作品に表すことができた。	◎桜華中学校の生徒が、本校で職場体験を行ったことは、互いの子供たちにとって、良い活動であった。今後も、近隣の施設との交流を大切にしたい。
特色ある学校づくり	○専門家やアスリートを招き、伝統的な文化や本物に触れる機会の設定	4	4	○4年生では、プロの漫才師をゲストティーチャーに迎え、「笑育」を学習した。コミュニケーション力を育成する意味でも効果的であった。 ○落語家、音楽家、陸上選手、アイスホッケー選手、芸術文化振興団体等を招いて、人、文化とかかわる教育活動を進めてきている。	◎最近では、人を馬鹿にしたような「笑い」が多くなっている。「笑育」のように、質の高い思いやりのある「笑い」を教えて欲しい。 ◎ブラインドサッカーの事例のように体験活動を今後もお願いしたい。感性を豊かにしていって欲しい。
	○地域とのかかわりを深めるボランティア活動の機会の設定	[3]	3	○富士見町、長寿を祝う会では、6年生が長寿を祝うメッセージを伝え、歌と合奏を行った。4年生は「笑育」で学んだ漫才を披露し、お祝いした。 ○さらに各学年に応じたボランティア活動の実施が課題である。	◎学校で学んだことを発表するというのは、学習を生かすという点で、大きな意味がある。積極的に地域とかかわりを深めることで、「人のために役立つ」ことを実感させ、人の気持ちに寄り添うことのできる子供を育てたい。